

令和元（2019）年度男女共同参画推進活動事業

男女共同参画につながる 市民企画事業報告書



さぬき市

令和元(2019)年度 男女共同参画につながる市民企画事業一覧

1. 「傷つく子どもを救うために」～人とひとのつながりを大切にする地域づくり～

親子の基盤が薄れていると言われる現代社会で、さぬき市でも児童虐待や家庭内暴力(DV)などの問題が起きている。しかし、虐待などの問題は外から見えにくく、支援の方法を模索している段階にある。

そこで、専門家を招いた講演を開催することで解決に向けた取組について学び、「子どもを肯定しよう」「子どもも親も幸せであらねばならない」「人は変わることができる」という意識を持ち、市民が自分らしくともいきいきと生きることができまちなちづくりを考えてもらった。

《さぬき市友好翼の会》

2. 災害時の情報取得方法を学ぶ

生活に身近な「スマートフォン」を活用すれば、さぬき市安全安心コミュニティシステムをはじめ、各種防災アプリなどを駆使して災害時に役立つ情報を得ることができるものの、高齢者の中には十分に使いこなすことができていない人も多い。

そこで、高齢者が防災の基礎知識やスマートフォンの使い方を学ぶ講習会を開催し、災害時の心構えや的確な行動などの正しい情報の取得方法を学ぶことで、住み慣れた地域での安心安全な暮らしについて考えてもらう機会を作った。

《話楽会》

3. 絵本から学ぶ共生と自分らしさ

子どもたちのバランスのとれた心を育むために絵本を活用する保護者が多いことから、男女共同参画の視点でピックアップした絵本の「ブックリスト」を作成し、保護者の絵本選びに役立ててもらった。また、読み聞かせの基礎の学び直しなどを行った上で、子どもたちが興味を持ちやすい「パネルシアター」を作製・上演した。読み聞かせを通して、次世代を担う子どもたちに互いに尊重すべき存在であることや、感じるだけでなく「考える」ことの大切さを知ってもらい、一人ひとりが身体、年齢、性別、容姿、能力、価値観などに関わらず個性と能力を伸ばし、自立した個人として成長できるよう取り組んだ。

《お話ボランティア野の花》

4. 「自分探しのキャリア教育」～何かをしたい気持ちを大切に～

子どもたちが将来就く「仕事」について考えるためには、具体的な職種を知るだけでなく、自分の特性を活かすこと、将来の生活設計を見せることなども欠かせない。

働く男女が描かれた手づくりの「仕事カード」を使ったワークショップを中学校と連携して開催することで、中学生が、ジェンダーの視点や将来の「理想」とする自分について考えることで、自己肯定感や他者肯定感を育んでもらう取り組みをした。

《さぬき市キャリアサポート》



※記載内容は、実施報告書に基づく。

「傷つく子どもを救うために」
～人とひとのつながりを大切にする地域づくり～
《さぬき市友好翼の会》



傷つく子どもを救うために
～人とひとのつながりを大切にする地域づくり～



二つの悲惨な
産科死事件から
考えろ



傷つく子どもを救うために

～人とひとのつながりを大切にする地域づくり～

日々、誰かが受ける苦しみ、痛み、悲しみは必ず誰かの心や体や命に届きます。また、誰かが受ける苦しみ、痛み、悲しみは必ず誰かの心や体や命に届きます。

とき 令和元年12月1日(日)
18:30～19:30 (13:00 開場)

参加無料
定員 100名

ところ 平立文化センター
(さぬき市長尾路1894 電話0879-52-1664)

講師 信田 さよ子さん



10月30日から電話で申し込み受付 先着順
電話 090-7141-4114 (基本) fax 087-894-2277

主催 さぬき市友好員の会

毎年
男女共同市民講座
開催 その実績に
敬意



原宿カウンセリングセンター
信田 さよ子



講演終了後、信田さんの本サイン会と会場風景

殺されなかったら
子ども達の被害は
表面化しない



パパ、ママをぶたないで！

パパがママをぶつのはボクのせい？

少年ボイは、パパのご機嫌をいつも気にして暮らしている。パパがママに暴力を振るうのは、「自分のせいだ」と思っているから、ママもパパの顔色を伺う。

ボイはこのことは誰にも言っていないと誓い、じっと早急していたが、小鳥や仲良しの犬に「話してみたら」と勧められて、王様の手紙を書く・・・



パパ、ママをぶたないで！

傷つく子どもを救うために

～人とひとのつながりを大切にする地域づくり～

二つの悲惨な虐待死事件から考える

- ・虐待＝母親加害者という常識を捨てる(一番危険なのは父親)
- ・地方自治体をまったく援助がなければ転居によってうやむやにされる
- ・父から母へのDVが、虐待の最大のリスクであること
- ・DV被害者支援と虐待防止機関との連携

子ども虐待の分類

身体的虐待	ネグレクト
心理的虐待 (面前DV)	性的虐待

殺されなかった子どもたちの被害は表面化しない

世代間連鎖を防ぐには

- ・子育てを一人で背負わない
- ・母親への過重な負担を避ける(夫の協力)
- ・安定した夫婦関係
- ・安心できる集団(グループ)、援助者をもつ
- ・生育歴をたどる

社会的背景の大きさを知る

- ・孤立
 - ・経済的貧困
 - ・知的貧困(文化的貧困)
- イメージ・言葉・知識の貧困が安全・安心感の乏しさにつながる
そこから発生する暴力

いくつになっても大切なこと

- ・幸福感というより安心感
- ・Safety place(安全基地)があるかどうか
- ・安定的で安心できる他者(養育者でなくてもいい)は誰か
- ・他者を傷つけ踏みつけることの快感が幸福感になっていないか
- ・子どもへの愛情とは子どもに安心感を与えること

参加者の感想

* AC(アダルトチルドレン)の人たちが、家族がおとなになってから、機能不全家族になり、その救われる方法を学びたいです。

* メディアで取り上げられている事件は様々な背景があることがわかりました。面前DVが子ども(5歳まで)に影響することが分かった。本音で話される内容で、とても楽しかったです。

* たくさんの心に響くこと、気づきがありました。その中のひとつに、加害者プログラムも被害者支援の一環で行なっていることが、印象に残りました。また、言語化することの大切さを改めて認識しました。

* 虐待についての、具体的な事例の生々しい背景、新聞やテレビだけでは知り得なかった背景や、詳しい内容について聞くことができたことはよかったし、今日の講演をきっかけに、もっと事件のその後や、背景について知る必要がある、もっと原因があるんだ...等深く考えていきたいと思った。

* 暴力の加害者は「自分は正しいことをしている」という自分の正義、プライドの結果の1つということを感じました。傷ついた人が、周りの人に相談できやすくなる地域になればと思います。

* 時代とともに、起きた事件の説明をしなからのお話で、分かりやすかったです。事件の背景には、必ず、成育歴に問題があることが多いのに納得しました。

* 思いやりの心は通じるが...。自分は間違っているかと思うことが大切、は心にしました。

これから

* 子どもが家庭を持ち、別々の生活をしているが、関わり方について、もう一度考えてみたいと思いました。誰かの安全地帯でありたいと思います。

* 家族にこの講演の内容を伝えたいと思いました。日々アンテナを高くして、家族やそれをとりまく環境が、少しでも明るく健全な方向へつながる努力をしたいと思います。

様式第2号（第10条関係）

男女共同参画推進活動事業
実績報告書

（団体名：さぬき市友好翼の会）

事業の名称	「傷つく子どもを救うために」 ～人とひとのつながりを大切にする地域づくり～
テーマ	6 あらゆる暴力の根絶
開催日時又は納品日	令和元年12月1日（日）13時30分～15時30分
開催場所	辛立文化センター（さぬき市長尾西1694）
事業の実績 （実施内容、参加者数、 納品数など）	<p>【実施内容】 講演会 演題「傷つく子どもを救うために」 ～人とひとのつながりを大切にする地域づくり～ 講師 信田 さよ子さん 原宿カウンセリングセンター所長 臨床心理士・公認心理師</p> <p>参加者数 122名（男性11名 女性111名）</p>
事業の効果 （工夫した点、反省点、 参加者からの意見など）	別紙のとおり

※ 活動状況が分かるもの（記録写真、配布資料等）及び助成対象経費に係る領収書の写しを添付してください。

(別紙)

事業の効果
(工夫した点、反省点、
参加者からの意見など)

【事業の効果】

「子どもを肯定しよう」「人は変わることができる」を実感し、それがさぬき市に浸透し、市民が自分らしくともいきいきと生きることができるまちづくりを、意識できるようになることを目標に掲げて取り組んだ。

児童の虐待死報道が日々取り上げられる中、香川県は全国で7番目に多く（総務省『人口推計年報』2017年）、さぬき市でも毎年50件以上の相談が寄せられている。しかし、会員や、身近な人たちに尋ねると、「さぬき市で虐待事件なんて聞かないし、見ないし、無いと思うよ」との返事がほとんどであった。

今回の講演会では参加者が児童虐待の現実を知り、虐待問題を「自分のこと」として考えるようになったことで、今後虐待児童への支援に力を注ぐ必要があると考える意見が出てきた。

- ・自分にはDVや虐待には、関係ないとことのように思っていたが、改めて考えなおす機会になったと思う。
- ・今日の講演で聞いたことを頭において、虐待されているかもしれない子どもの早期発見に努めていきたい。
- ・まず身近なことで、祖母として子どもの家族（孫）を守りたいと思う。（今日のお話を参考にして）地域の一員として、子どもたちを見守り続けたいと思う。

こうした感想が出てきたことは大きな成果である。

地域づくりへの具体的な提案まで話を深めることはできなかったが、参加者の多くが、「子どもを肯定する」「人は変わることができる」を実感し自分ができる身近なことから積極的に、取り組もうとの決意が伺えた。

- ・（子どもが）話したら、その話を聴ける人になりたいと思った。
 - ・自分の子育てを今一度、振り返り、改めたいです。
- また、これからは、子どもや孫への関わり方への、アンテナを高くするとともに、自らの生活を、生育歴をたどりながら振り返る契機を掴むことができた。

と、述べる参加者がいるなど、概ね本事業は目的を達成したと考える。

事業の効果
(工夫した点、反省点、
参加者からの意見など)

- 一方、参加者からの疑問点や要望も幾つかあった。
- ・子どもの頃から家庭内暴力を続けてきた成人への対応
 - ・性的虐待問題について
 - ・5歳児までに受けた心の傷の影響について
 - ・加害者サポート、加害者支援プログラムについて
 - ・戦場体験から生まれるDVの負の連鎖について
 - ・面前DVが子どもに与える心理的影響について 等

【工夫した点】

事前に、面前DVがテーマのDVD作品『ママ、パパをぶたないで』を鑑賞し、「夫婦間のDVは虐待」を認識する機会を設けた。参加者の年齢層、男女比、臨床心理士、カウンセラー、養護教諭、学童教室指導員の参加、地域の福祉関係者等の参加者属性を、講師と共有した。

【反省点】

工夫はしたが、参加者人数100人を揃えることに意識が行き過ぎたため、内容が難しかったとの感想もあったのは反省点である。

申込期限後に託児の依頼があり、社会福祉協議会に迷惑をかけてしまった。

男性・若年層（10代～30代）の参加者が少なかったこと。この点については、女性参加者が男性や若年層へのスピーカーの役割を果たす方法を検討したい。

【今後に向けてのさぬき市の課題】

日本における家庭内の暴力の現実を知ることができたものの、「さぬき市の課題」までは到達することができなかった。今後、参加者にさらなる当事者意識を感じてもらえるワークショップなどを企画実践したい。また、「自分の子ども時代は、今で言う虐待は当たり前で育った。自分の子どもにも体罰に近い行為をするが罪悪感は無かった。」（男性）体罰と虐待の関連は大きいと、森田ゆりさんはその著書『体罰と戦争』で言う。体罰を容認する、若い親たちもいる。この意識を変えることが「さぬき市の課題」と考える。体罰は「しつけのため」と言う。その体罰で死ぬ子どもたち。今後、私達は、各方面と連携しながら、男女共同参画の理念に基づき、子どもの人権尊重の子育てを推し進めたいと考えている。

「災害時の情報習得方法を学ぶ」 《話楽会》



災害時の情報取得方法学ぶ

生活に身近な「スマートフォン」を活用すれば、さぬき市
安全安心コミュニティシステムをはじめ、各種
防災アプリなどを駆使して災害時に役立つ
情報を得ることができるものの、高齢者の中には
十分に使いこなすことができていない人も多い。

そこで高齢者が防災の基礎知識やスマート
フォンの使い方を学ぶ講習会を開催し、災害
時の心構えや的確な行動などの正しい
情報の取得方法を学ぶことで、住み慣れた地域
での安心安全な暮らしについて考えてもらう機会を
作った。

講習会に参加して（アンケートより）

防災情報にはスマホが非常に役立つ

音声検索、文字検索、位置情報、

気象情報、乗換案内、アプリの増し方

メールの登録、ライン、写真の送信、オフ

携帯、さぬき市安全安心コミュニティ登録等

もし災害になればスマホで情報知らせ合い

目に見えぬ安全に避難する。生命を守るためには

スマホ利用は大切。

ニアスマホ教室：防災講習会

話楽会



スマホに挑戦!!
出来るかな



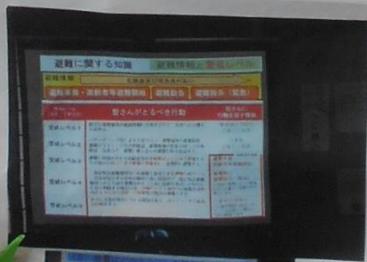
位置情報アプリメールライ
安全安心コミュニティ登録



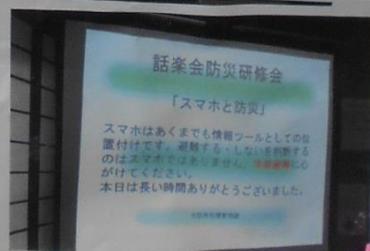
男性もしっかりがバっています



サヌキ市防災情報説明
避難の方法



避難に関する知識
災害への心構え場所



スマホで情報入手
早期避難に心がける

男女共同参画推進活動事業
実績報告書

(団体名： 話楽会)

事業の名称	災害時の情報取得方法を学ぶ
テーマ	地域社会における男女共同参画の推進
開催日時又は納品日	スマホ教室 8月9日、9月13日、10月11日、12月13日、 防災教室 11月8日 (Aグループ 13時～14時 ・ Bグループ 14時～15時)
開催場所	志度働く婦人の家
事業の実績 (実施内容、参加者数 納品数など)	参加者Aグループ10人、Bグループ10人で開催する。 スマホ教室の内容は、参加者全員スマホがよく理解できず、操作もあまり分からないので、簡単なメールアドレスのうち方から始める。 配信、位置情報、天気情報、写真とアプリの増やし方、お財布携帯、乗り換え情報の使い方、音声入力、文字検索、ライン使用等を習う。 防災情報取得のためさぬき市安全安心コミュニティへ全員登録する。 県や市の災害情報が受けられる状態にする。 防災教室ではさぬき市の現状を知り災害時の心構えや避難の仕方、連絡や声かけの必要性を知った。
事業の効果 (工夫した点、反省点、 参加者からの意見など)	スマホの操作はよく分からないが、防災情報にはスマホが必要になると思って参加した人たちが情報取得方法を学び、全員がさぬき市の安全安心コミュニティ登録し、災害情報を早く手に入れる準備が出来た。又習ったことを周りの人に知らせることが出来る様になった人もいる。積極的に災害用伝言ダイヤルを使いたい人もいた。 情報を受け取るのに全員スマホを利用するとの事だ。 防災教室で、さぬき市の状態や防災マップや避難所、ローリングストック法を学び、緊急時に備え自分で準備出来る具体的な事を再確認した。又周囲の人たちと連絡を取り合い情報を知らせ合うために平日頃から声かけし、いろいろな事で繋がりをもって生活する事が大切だと気づく機会を提供出来た。

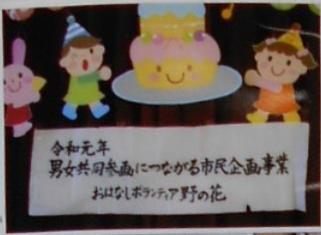
※ 活動状況が分かるもの(記録写真、配布資料等)及び助成対象経費に係る領収書の写しを添付してください。

「絵本から学ぶ共生と自分らしさ」 《お話ボランティア野の花》



おはなしボランティア

野の花 活動報告



令和元年
男女共同参画につながる市民企画事業
おはなしボランティア野の花



志度幼稚園

子どもたちから「つぎは大きな黒いねこがで
てくるぞ!」の声があがりました。みんな本をよく
知っているようでした。



寒川幼稚園

園児全員が静かに一生懸命聞いてくれました。



志度小学校

時間が短くて残念でしたが、本の意味「みんな
ちがって みんないい」は よく理解しているよ
うでした。



志度小学校わくわく

暖炉の火ではなく「ねこの目だったんだ!」の
声が聞こえました。みんな真剣に聞いてくれま
した。



男女共同参画につながる市民企画事業

絵本から学ぶ共生と自分らしさ

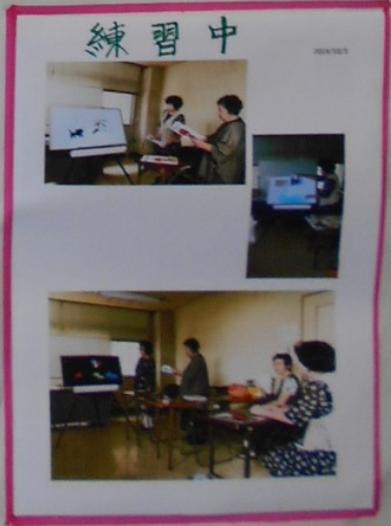
絵本のなかの「野の花」から
子育て中のおなたへおすすめ絵本

題名	著者	出版社
生きるってすてき	宮本 信子 / 高野 浩子 / 柳	大井書店
女の子はみんなお姫様になれないの？	あべまゆみ / 藤田 洋子 / 藤田 洋子 / 藤田 洋子	講談社
王様と王様	あべまゆみ / 藤田 洋子 / 藤田 洋子 / 藤田 洋子	講談社
ごんぎつね	宮本 信子 / 高野 浩子 / 柳	大井書店
パンがやぶまでまぬいで	あべまゆみ / 藤田 洋子 / 藤田 洋子 / 藤田 洋子	講談社
ブレーメンの音楽隊	あべまゆみ / 藤田 洋子 / 藤田 洋子 / 藤田 洋子	講談社
まぶたのランドセル	あべまゆみ / 藤田 洋子 / 藤田 洋子 / 藤田 洋子	講談社

＜ブックリスト配布先＞
 志度小学校 志度小児童クラブ 志度図書館
 寒川幼稚園 鴨庄児童クラブ 志度わくわく
 志度幼稚園 生涯学習館 志度図書館



私たち野の花は「自分らしく」をテーマにブックリストを作り、
 その中から「わたしは赤ねこ」「ブレーメンの音楽隊」を選び、
 フラックライト対応のパネルシアターをつくりました。



男女共同参画推進活動事業
実績報告書

(団体名 : お話ボランティア野の花)

事業の名称	絵本から学ぶ共生と自分らしさ
テーマ	学びの場における男女共同参画の推進
開催日時又は納品日	①Aブックリスト作成4回 (6/10・6/15・6/18・6/20) ①Bブックリスト配布10カ所 (7月～2月) ②パネルシアタ作成研修4回(7/4・8/7・9/5・修正日10/3) ③パネルシアターお話会6回(9/18・10/28・12/19・12/20・2/6・2/10)
開催場所	①A志度働く婦人の家 ①B志度働く婦人の家、志度小学校、寒川幼稚園、志度幼稚園、鴨庄児童クラブ、志度児童クラブ、寒川図書館、鴨庄生涯学習館、志度図書館、志度放課後わくわく教室 ②志度働く婦人の家 ③鴨庄児童クラブ、志度児童クラブ、志度小学校、寒川幼稚園、志度幼稚園、志度放課後わくわく教室
事業の実績 (実施内容、参加者数、納品数など)	(実施内容) ① ブックリストの作成・配布 男女共同参画が身近に思える「わたしらしく生きる」「みんなちがってみんないい」をテーマにブックリストを作成し、上記①Bに配布した。 ②パネルシアター作成研修の開催 おおばこの会阿部千鶴子さんを講師に招き、パネル布を貼ったボードの上で様々な話が展開するパネルシアター作りの手法と演技方を学んだ。わたしらしくいきる、違いを認め助け合う事が自然と入るように「わたしはあかねこ」と「ブレーメンの音楽隊」のパネルシアターを作成した。 ③パネルシアターお話会の開催 小学校は5年生朝の時間、幼稚園は特別に設けた日のお話会の時間、他は野の花が定期的に行っている時間を活用し6カ所で開催した。
	(事業の効果) 大形絵本よりも見やすいが、ほとんど見る機会のないパネルシアターを使い演じる事で、参加者に動きのある登場人物やパッと変わる背景に興味をいだかせ、普段の絵本での活動より強いイメージを感じ、考えてもらう事が出来たと思う。

<p>事業の効果 (工夫した点、反省点、 参加者からの意見など)</p>	<p>「わたしはあかねこ」の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしく生きるのが良い。 ・金子みすずの詩のように、みんな違ってみんな良いのだから、それぞれ違いを認め尊重しないとイケない。 ・幼稚園児には独立し一人で生きていくのは未だ理解できないが、色が違う事には違和感を感じることなく素直にいろいろな色があり、それぞれ綺麗だと認め合っている。 <p>「ブレーメンの音楽隊」の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りから認められない者も仲良く力を合わせると幸せになれるのだから仲間外れでなく仲良くするのが良い。 ・知恵を出し合うと上手くいくから、いろいろ違った考えも尊重したい。 <p>絵本には、作者が込めた思いが、読み手に、自然と抵抗なくそのまま伝わる力があると思うので、今後も絵本を使い、子どもたちに良い刺激を与えられる活動を続けていきたいと思う。</p> <p>(工夫した点)</p> <p>ブックリストにちょっとしたコメントを書き入れたことで、「本が選びやすかった」という感想があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルシアターはブラックライトでも使えるようにしたことで「色がとても綺麗で楽しく見られた」という感想もあった。 <p>(反省点)</p> <p>事前に男女共同参画事業の説明が足りず、パネルシアター後の感想や内容の話し合いの時間が殆どとれない会場があった。</p>
--	--

※ 活動状況が分かるもの(記録写真、配付資料等)及び助成対象経費に係わる領収書の写しを添付してください。

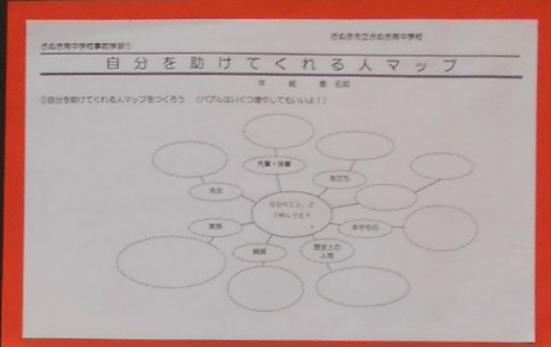
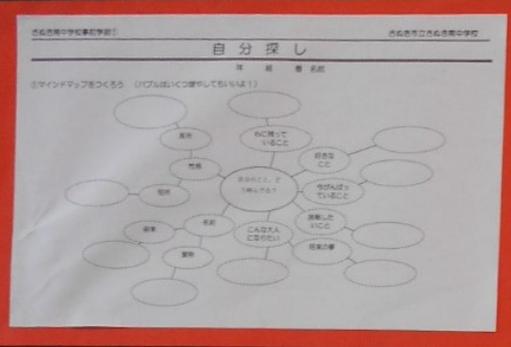


「自分探しのキャリア教育」
～何かをしたい気持ちを大切に～
《さぬき市キャリアサポート》



自分探しのキャリア教育

~何かをしたい気持ちを大切に~



仕事カードを使ったワークショップ

メンバー紹介
アイスブレイキング
グループ内発表
仕事の説明

カードワーク開始
親がカードを配る
カードの説明
カードの特徴
(職業名・絵・説明文 など)
-RIASEC
-人・物・情報・創造
-資格

ゲーム開始
制度説明しながら進行

ワークシート記入
カードを選んだ理由
なるには？



選ばなかった理由

グループで選んだ(選ばなかった)カードについて話す

グループ発表(1グループ2分)
全体でシェア

全体のおまとめ

アンケート記入

閉会の挨拶

終了

さぬき市立さぬき南中学校
2019年6月5日



マナー講座

さぬき南中学校
マナー講習会

◆本日の目標 社会に通用するマナーを学ぶ
◆カリキュラム

- 「マナー」の重要性を理解する
- 思いやり
- 身だしなみ
- ことば遣い
- 電話のかけ方(携帯電話含む)
- 贈物の贈り方
- 贈物の受け方
- 挨拶の仕方
- 多客時
- 自己紹介
- 入退席

2019年6月12日
おがけアリーナサポート

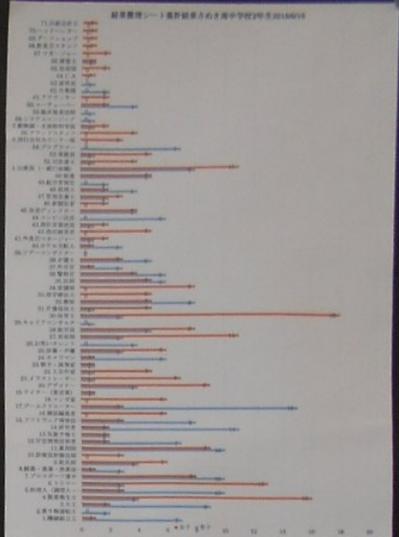


さぬき市キャリアサポート

NO.1

「自分探しのキャリア教育」

～何かをしたい
気持ちを大切に～



RIASEC

乗り物運転士 気象予報士 俳優・声優 教師 放送ディレクター プログラマー

マナー講座

☆今回の授業を通して、ことば遣いやあいさつでは、基本からくわしいことまで教えてくださり、社会に入ってから勉強になりました。電話の掛け方や、職場を訪問するためのマナーなど、分らなかつたけれど、実習があったので、本番では、あまり緊張せずに言えると思います。歩き方の練習では、「いいよ、そんな感じ。」と声をかけてくださり、安心しました。このことをいかに職場体験に取り組みます。

感想

カードワーク

★自分がどういった仕事に就きたいか、改めて分かった。メンバーの人と話し合いをすることで、自分と同じだなあと、これは自分と違うけど、これもいいなあと、いろいろ考えることができた。人の役に立つ、だけれど一人でも元気になる仕事ができるように、今できることを見つけて、進んで取り組んでいきたい。知らない仕事もたくさんあって、これから生かしていきたいと思った。楽しく取り組むことができ良かった。

★この授業は、自分の将来について、とても深くじっくりと考える時間になったと思いました。将来にしたい仕事はいろいろ迷いながら、しっかりと後悔しないように考えていきたいと思いました。

★今までは、特になりたい職業もなかつたけど、カードゲームで自分の興味のある職業が少し分かった。ぼくは、動物に関わる仕事や、料理をすることなどに興味があった。今日の授業をして、職業について楽しく学べてよかった。今日の授業で学んだことも考えて、職場体験先を決めたいと思う。

★僕は今まで全く仕事の事に興味が無くて、正直何でもええわ、って思っていたけど、今日のこの2時間で楽しく、くわしく知れていい機会になりました。今回の、興味を持った仕事をもちに、またこれからも、いろいろな仕事を見つけながら、一つにしようって「将来の夢」ができたらしいです。

★仕事の名前は知っていても、内容を何となくしか理解してなくて、今日初めて「こんなことをするんだ」と知った職業もあった。自分はどのようなタイプで、何の仕事にひかれるのかが少し分かった気がした。4つを選んだときに、人と接する仕事と、人の役に立てる仕事に分かれていて、びっくりした。もっと、本やインターネットで調べてみたいと思った。(以上カードワーク)

☆私は、講習会で、あいさつは大切だとあらためて思いました。職場体験先の人にも、目を見てさわやかなあいさつをしたいです。職場体験後も続けていきたいです。椅子の座り方やお辞儀、歩き方の実演や電話の掛け方にその練習、とても分かりやすく、楽しく学ぶことができました。特に言葉づかいは気を付けないといけないので、家でも練習しておきたいです。今回学んだことを注意しながら、これからに生かしていきたいです。

☆今日の講習会では、身だしなみ・言葉づかい・姿勢など、マナーについて学習しました。私が難しいと思ったのは、言葉づかいです。尊敬語や謙譲語などその場にあった言葉づかいができる事、仲間ことばを使わないなど、日頃から気をつけなければいけないことばかりでした。電話は「相手が切ってから切る」など、全然知らなかつたことを知ることが出来、自分自身を成長させてくれるそんな講習会でした。

☆あいさつを相手の方にする時は、自分からすることをおぼろげに覚えておきたいです。ことばづかいがともなう難しいなと思いました。「失礼いたしました」「申し訳ありません」を、「すみません」「ごめんなさい」と言いそうなので気をつけたいです。私は「一応〜」「半分〜」という口くせがあるので、悪い言い言葉は使わないようにしたいです。帰った時、多く感動に気がつけようと思いました。

開催場所: さぬき市立さぬき南中学校

さぬき市キャリアサポート

様式第2号（第10条関係）

男女共同参画推進活動事業
実績報告書

（団体名：さぬき市キャリアサポート）

事業の名称	「自分探しのキャリア教育」 ～何かをしたい気持ちを大切に～
テーマ	人権の尊重と男女共同参画の意識づくり
開催日時又は納品日	第1回6月5日（水）10：30～12：10 第2回6月5日（水）13：25～15：15 第3回6月12日（水）13：35～15：15
開催場所	第1回～第3回 さぬき市立さぬき南中学校
事業の実績 （実施内容、参加者数、納品数など）	第1回・第2回 【実施内容】 働く男女が描かれた手作りの「仕事カード」を使っ てのワークショップ 【参加者数】第1回 さぬき南中学校2年生 60名 【参加者数】第2回 さぬき南中学校2年生 58名 第3回 【実施内容】 「職場体験に備えた マナー講座と実習」 【参加者数】さぬき南中学校2年生118名
事業の効果 （工夫した点、反省点、参加者からの意見など）	別紙のとおり

<p>事業の効果 (工夫した点、反省点、参加者からの意見など)</p>	<p>【事業の効果】 ①将来「何がしたいか」を、カードワークを通して選び、友達と意見交換することで、自分らしく生きることの大切さに気づくことができた。 ②各人がお互いの違いに気づき、認め合うことができ、自己肯定感・他者肯定につながっていった。</p> <p>【工夫した点】 ①自作のカードを使用することで、内容が熟知できており、生徒への支援が行き届いた。 ②中学校とは特に綿密に連絡を取り合った。 先生方の協力が得られ学習の成果に現れた。 ③生徒一人ひとりの発言を尊重することで、各自の考えがより深まっていった。 ④カードワーク、マナー講座では、サポーターの配置・動きには特に留意し、<u>生徒が活動しやすいことを第一に考えたことが講座の充実につながった。</u></p> <p>【反省点】 ①ファシリテーターが急遽変更になり、事前の取り組みがやや不十分になったが、一致団結で乗り切った。 ②事業承認から実施までの時間が短く、資料作成に苦慮した。</p> <p>【生徒の感想】 (別紙資料として添付) ①自分が本当になりたいと思える職業が見つかってよかった。でも、なるためには、その仕事にどうしたら就けるかなどが、まだ分かっていないので、家でも調べてみようと思った。また、今日の授業を通して、知らない仕事もあり、その仕事にも興味を持つことができ、楽しかった。 ②しっかり未来の自分の事を考えられている人がいて、感心したし、すごいと思った。自分はまだはっきりとは決まっていなかったけど、今回の授業で、本当に保育士になりたいと思いました。免許が必要だったり、学校に行って保育士になるための勉強をしたり、なるまでにたくさん大変なことがあると思ったけれど、1人でも多くのお母さんの役に立てるように頑張りたいと思いました。 ③今までは、特になりたい職業もなかったけど、カードゲームで、自分の興味のある職業が少し分かった。僕は動物に関わる仕事や、料理をすることなどに興味があった。今日の授業を受けて、職業について楽しく学べてよかった。今日の授業で学んだことも考えて職場体験を決めたいと思う。</p>
---	---

事業の効果
(工夫した点、反省
点、参加者からの意
見など)

【事業の効果】 ①将来「何がしたいか」を、カードワークを通して選び、友達と意見交換することで、自分らしく生きることの大切さに気づくことができた。

②各人がお互いの違いに気づき、認め合うことができ、自己肯定感・他者肯定につながっていった。

【工夫した点】

①自作のカードを使用することで、内容が熟知できており、生徒への支援が行き届いた。

②中学校とは特に綿密に連絡を取り合った。
先生方の協力が得られ学習の成果に現れた。

③生徒一人ひとりの発言を尊重することで、各自の考えがより深まっていった。

④カードワーク、マナー講座では、サポーターの配置・動きには特に留意し、生徒が活動しやすいことを第一に考えたことが講座の充実につながった。

【反省点】

①ファシリテーターが急遽変更になり、事前の取り組みがやや不十分になったが、一致団結で乗り切った。

②事業承認から実施までの時間が短く、資料作成に苦慮した。

【生徒の感想】 (別紙資料として添付)

①自分が本当になりたいと思える職業が見つかってよかった。でも、なるためには、その仕事にどうしたら就けるかなどが、まだ分かっていないので、家でも調べてみようと思った。また、今日の授業を通して、知らない仕事もあり、その仕事にも興味を持つことができ、楽しかった。

②しっかり未来の自分の事を考えられている人がいて、感心したし、すごいと思った。自分はまだはっきりとは決まっていなかったけど、今回の授業で、本当に保育士になりたいと思いました。免許が必要だったり、学校に行って保育士になるための勉強をしたり、なるまでにたくさん大変なことがあると思ったけれど、1人でも多くのお母さんの役に立てるように頑張りたいと思いました。

③今までは、特になりたい職業もなかったけど、カードゲームで、自分の興味のある職業が少し分かった。僕は動物に関わる仕事や、料理をすることなどに興味があった。今日の授業を受けて、職業について楽しく学べてよかった。今日の授業で学んだことも考えて職場体験を決めたいと思う。

「男女共同参画につながる市民企画事業」実施報告 番組放送実績

- ・放送局 さぬき市ケーブルネットワーク
自主放送チャンネル（12ch）
- ・放送日 1日6回放送（6：30～、12：00～、16：00～、19：00～、
21：00～、23：00～）
 - 【第1回】6月 5日 19時～ 「絵本から学ぶ共生と自分らしさ」
《お話ボランティア野の花》
 - 【第2回】6月 9日 19時～ 「災害時の情報取得方法を学ぶ」
《話楽会》
 - 【第3回】6月12日 19時～ 「自分探しのキャリア教育」
《さぬき市キャリアサポート》
 - 【第4回】6月16日 19時～ 「傷つく子どもを救うために」
《さぬき市友好翼の会》

※SCN ニュースは火曜、金曜の19時～放送回分から更新、

【再放送】7月12日（日）～7月18日（土）

※SCN リポート枠で第1～4回までを一挙放送
（8：00～、13：00～、19：30～）



令和 2(2020)年度 男女共同参画推進活動事業一覧

1. だれでもできるアンガーマネジメント“ハッピーアンガーProject”

《事業の目的》

新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出自粛・営業自粛を余儀なくされ、家庭で過ごす時間が増えた人が多い。日常生活の変化に伴い、さまざまなストレスを抱えたという市民の声も聞く。そこで、怒りの感情と上手に付き合うための心理トレーニングである「アンガーマネジメント」講座を開催し、日常的に「アンガーマネジメント」を使える人を増やす。

《事業の効果》

「アンガーマネジメント」を身につけることによって、怒りなどの感情を適切にコントロールし問題解決できるようになると、自他の個性や、社会の多様な変化への対応策がとれるようになる。一人ひとりの意識や認識が柔軟になることによって、他者を認められるようになる。「アンガーマネジメント」を使える人を増やしていくことで、誰もが認め合えるまちづくりを目指す。

《高田千恵》

2. 子育て世代が地域で安心して子育てできる社会づくり

《事業の目的》

昨今の政治・経済の情勢や、新型コロナウイルス等の影響で不安定な生活を余儀なくされている子育て世代に向け、参加者各自で育てた野菜を使った調理・試食会や、子育て用品の譲渡会等の交流の場を作り、親が孤立した子育て“孤育て”から脱却し、地域で支え合い子育てできるシステムの構築を目指す。

《事業の効果》

生活の基盤である衣・食の支援から始めることによって、参加者の食への関心を高め、生きる力となる糧について学んでもらうきっかけにする。地域の人との交流の輪を広げていくことで、大人も子どももよりよい環境で暮らせるようになり、一人ひとりが生きやすく、地域で安心して子育てできるまちづくりを目指す。

《南由樹子》

※記載内容は、実施計画書に基づく。

**令和元(2019)年度男女共同参画推進活動事業
男女共同参画につながる市民企画事業報告書**

さぬき市総務部秘書広報課
男女共同参画・国際交流推進室

〒769-2195 さぬき市志度 5385 番地 8
TEL 087-894-1660 / FAX 087-894-4440
E-mail danjokokusai@city.sanuki.lg.jp